

長野自動車道沿線で整備効果を実感



安曇野市長(元長野県副知事)
太田 寛氏

当時は、中央自動車道が先行的に全線開通され、北の地にも一刻も早く高速道路が開通しないものかと、一県職員として長野の発展を祈るように期待していた記憶が蘇りました。

現在は、安曇野市都市計画マスタープランのとおり、長野自動車道は都市機能を集積する拠点市街の有機的な連携を図るために必要不可欠な交通基幹軸としての役割を担っています。また、安曇野ICに加え、全線開通後の梓川スマートICの供用については、東西方向への交通の円滑化を進める上で重要な拠点となっており、市民の暮らしを下支えしています。広域交通との間に二つの玄関口(IC)を持つ当市の交通網は、生活基盤、産業・観光、農業、災害面等あらゆる面で非常に強みとなっています。

将来的には長野自動車道と接続する松本糸魚川連絡道路等の整備を県と一体となって推進し、更なる産業の振興や観光等による交流の促進等に資する都市間の移動円滑化に向けて、広域交通のネットワーク機能の強化を図って参ります。

安曇野市に限定せず、長野県にもたらす整備効果の期待という意味で、現在計画を進められている安曇野北IC(仮称)や筑北スマートIC、松本JCT(仮称)の整備効果に今後期待したいと思います。



長野商工会議所会頭
水野 雅義氏

当時、岡谷JCT～岡谷ICまで先行開通され、更埴JCTまでの全線開通となるまで約7年の歳月を経ており、この7年は長野商工会議所ひいては長野地域にとって非常に長く感じられました。

待ち望んだ全線開通後には、第18回長野オリンピック・長野パラリンピックが開催され世界から多くの人が長野を訪れたほか、新規の工場用地や大型商業施設の進展等、沿線地域の開発が次々と行われていく光景を実際に見て、長野地域の発展を実感することができました。また、観光面においても、長野自動車道は観光施設との接続拠点となっており、全線開通をきっかけに、特に外国人観光客の集客が増大する等、インバウンド観光の振興にも貢献されているものと思います。

長野地域の商工業にとって長野自動車道は切っても切り離せない重要な道路であることから、NEXCO東日本およびNEXCO中日本で現在進められている長野自動車道のリニューアル工事については、安全・安心な道路を次世代につなげる重要な取り組みであるため、全面的に支持すると同時に、更なる地域活性化への貢献に寄与していくことを期待しております。